



盛岡市櫻山神社にて、田子神楽の華やかな舞を奉納（関連記事 P2～3）

田子町 議会だより

2019



Pickup

1. 田子神楽の奉納 P2~3
2. 道の駅視察 P9
3. 世紀越えトンネル活動... P10~11

第98号

平成31年1月24日発行
青森県田子町議会

田子神楽 所縁ある地にて 舞う

田子町・田子神楽に所縁（ゆかり）ある、南部家当主がまつられている盛岡市、櫻山神社にて、田子町神楽保存会18名が神楽を奉納してきました。

番楽



新井田佳子さん

「櫻山神社にて田子神楽を奉納しましょう」という事で、なぜか真っ先に心が踊りました。今回、2演目を演じさせて頂きましたが、利直公も力添えしたかの様に身体が軽く、もう少し踊りたかったです。演じさせて頂いたことに感謝しております。関係者の方々ありがとうございました。

翁

約奉

傘舞



盆舞



千葉三慧子さん

400年ぶりの田子神楽奉納という貴重な経験をさせて頂きました。鶏舞を演じさせて頂きましたが、とても楽しく踊りきることができました。このような機会を頂き、ありがとうございました。

鶏舞



才川秋美さん

日が暮れ始めとても趣がある神秘的な雰囲気の中で鶏舞を舞わせて頂きました。なぜかとても力強い踊りが出来たような気がして、とても楽しく踊ることが出来ました。稀にしかない有意義なお時間をありがとうございました。これからも精進して頑張って続けていきます。



木谷健悦さん



今回の奉納は田子神楽保存会にとって、新たな歴史が刻まれた日になったと同時にこれからの未来へ向かう第一歩となりました。平成最後の年に貴重な機会をいただきありがとうございます。これからも田子神楽を力強く伝承していきます。

天形



権現舞

木谷真紀子さん



沢山の演目を踊る貴重な機会を頂きありがとうございました。技芸部皆が一致団結して練習し踊れたことを嬉しく思います。体力をつけ恥じない踊りをしていきたいと思います。

山崎カスミさん



南部氏ゆかりの櫻山神社で奉納という貴重な機会を頂きありがとうございました。また、皆さんと貴重な時間を過ごせた事に感謝いたします。

囃子



宇藤佳明さん



長い時間、笛を吹くのは大変でしたが、やり切った達成感を得て、いい経験させて頂き感謝致します。また櫻山神社に田子神楽を呼んで頂ける様に日々笛の腕を磨きたいと思います。

11月26日、田子町町制施行90周年を記念して南部家ゆかりの盛岡市櫻山神社にて農作物の収穫に感謝する新嘗祭に合わせ、南部家46代南部利文氏や盛岡市長等多くのご出席の中、田子神楽保存会による奉納行事が行われました。神社には南部家代々の当主が祀られており、中興の祖と言われる26代信直と信直の息子として田子城で生まれた27代利直の2人は田子町と深い関わりがあり、特に利直は神楽への愛着が強く田子神楽に向鶴の使用を認め、正月や様々な行事を神楽で祝ったと言われる。この縁を大切にし田子神楽を絶やさぬようこれからも積極的に活動してほしい。
(日沢 一雄)

第4回定例会

あらまし

平成30年第4回定例回は12月6日から10日までの5日間の会期で開催されました。

本会議初日には、専決処分した事件の承認や補正予算など5件の議案が提出され、町長から提案理由の説明がありました。

7日の一般質問では3人の議員が登壇。道の駅や、田子牛、政策の現状について質問し活発な議論が交わされました。

10日には、初日に町長から説明があった議案について厳正な審議が行われました。続いて追加議案が2件が提案され審議されました。

審議結果

12月定例会では、補正予算等件の議案と件の報告が提出され審議しました。結果を一覧で掲載します。

議案番号	件名と主な内容	議決結果
議案第56号	田子町固定資産評価審査委員会委員の選任について	原案承認 (賛9・否0)
議案第57号	平成30年度田子町一般会計補正予算(第7号)について	原案可決 (賛9・否0)
議案第58号	平成30年度田子町国民健康保険事業勘定特別会計補正予算(第3号)について	原案可決 (賛9・否0)
議案第59号	平成30年度田子町介護保険事業勘定特別会計補正予算(第3号)について	原案可決 (賛9・否0)
議案第60号	平成30年度田子町国民健康保険町立田子診療所及び介護老人保健施設事業特別会計補正予算(第2号)について	原案可決 (賛9・否0)
議案第61号	特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について	原案可決 (賛9・否0)
議案第62号	平成30年度田子町一般会計補正予算(第8号)について	原案可決 (賛9・否0)

主な補正予算

○議案第57号

歳入歳出それぞれ2
177万円を追加する。

○議案第58号

歳入歳出それぞれ7
92万6千円を減額す
る。

○議案第59号

歳入歳出それぞれ21
万1千円を減額する。

○議案第60号

歳入歳出それぞれ1
53万7千円を追加す
る。

○議案第62号

歳入歳出それぞれ6
25万2千円を追加す
る。



議員 夫則端欠

道の駅と 特産品について

た上での用地取得とな
るための難易度や財政
的な面を勘案すると課
題が大きいため、候補
地としては適さない。

問2

建物の数や大きさが
決まっていないのに土
地の広さを前に決める
のはなぜか。

答2

導入すべき機能及び
町内におけるイベント
実施や、使いやすい駐
車場の設置等を考慮す
ると、必要面積は、概
ね1・5ヘクタールと
想定され、道の駅施設
整備に係る事業の補助
制度を活用していく上
で、用地確保は必須条
件となっていることか
ら、先行的に進めてお
ります。

問3

物産販売もあると思
われるが、町内各商店
やその他の人への影響
はあるのか。

答3

道の駅整備により地
元事業者の経営に悪影
響を及ぼす事は、主旨
に反してしまうことに
なるため、道の駅と地
元の事業者が相乗効果
を生むような関係でな
ければなりません。し
たがいまして、町全体
への波及効果としての、
交流人口及び来訪者の
増加を導き、道の駅が
真に町民に受け入れら
れる施設となるよう、
きめ細やかな情報提供
はもちろんのこと、町
民を巻き込んだ展開を
図りつつ、機運を高め
道の駅実現に向け促進
して参ります。

問4

名物が必要と思われ
るが、田子はニンニク
がそれにあたる。特に
黒にんにくは有望だと
思っているが、なぜガ
ーリックセンターでは
つくらないのか。

答4

田子町産の黒にんに
くは、町内の企業数社
が製造・販売しており、
非常に高い評価を得て
おります。しかし、当
町におけるにんにく裁
培の現状は厳しく、原
料が不足している状況
にあります。町内の業
者に伺ったところ、自
社で製造可能な数量の
約6割程度の原料しか
確保できず、原料の奪
い合いは慢性化してお
り、田子にんにくの不
足分を補うため、他の
産地のにんにくに頼ら
ざるを得ない状況との
ことであります。こう

答1

いった現状の今、ガ
ーリックセンターが黒に
んにくに参入するとな
れば、当然「田子にん
にく」を原料として製
造することとなり、原
料確保の段階から町内
業者と競合し、田子に
んにくを取り合うこと
となり、明らかに民業
圧迫に繋がるものであ
り、現時点では、黒に
んにくに関する取り組
みは行わない。

牛の家畜運搬 車両について

問1

牛の販売に運搬をお
願いしているが、年数
も経ち車検が危うくな
った車も多くなってい
る。中には車を無くし
た人もある。牛が多い
月は大変であり、支援
策は無いかを伺う。

車輛購入の可能性が
ある国の補助事業のな
かで、経営体育成支援
事業があり、県に確認
したところ、トラック
である以上、家畜しか
運搬しないと云っても、
専用機械としては認め
られないことから、補
助対象外であると回答
を頂いております。町
の単独事業で可能性が
あるとすれば、個人名
義では無く、既存の団
体や運搬組合を組織し、
農家支援が可能な体制
づくりや共同管理でき
るのであれば、支援の
検討も可能ではないか
と思われまます。



田子牛



沢口博二 議員

ブランド

問1

三戸・田子牛とは何か。

答1

三戸地方黒毛和牛種改良組合（畜協）において生産された牛です。



田子牛の丸焼き

問2

べごまつりで販売されているようだが、田子のべごまつりとどのよう折り返いをつけるか。

答2

まつりの賑わい創出の観点から、広く多くの事業者から参加を頂き、各事業者の考えにより、商品を販売して頂いております。

問3

会場で、畜産振興のための募金活動はできないか。

答3

畜産振興のための基金やファンドの活用はそれに応じた環境ができれば、可能性はあると思いますので、今後、検討して参りたいと思います。

アンテナショップ

問1

アンテナショップの今後の展開はどのようにするか。

答1

今年度で、地方創生推進交付金事業が終了となり、今後は全面的に事業を見直し、改善すべき点は改善し、道の駅の実現に向けて、より実践的な活動に対する支援を行って参りたいと考えております。

問2

道の駅構想の進捗状況を教えて欲しい。

答2

用地選定の検討が、三候補地の抽出作業段階となっており、産直施設の運営、集出荷の

仕組みづくりに向け、現状の問題点等の洗い出し作業を進めている状況です。スケジュールは、全体的な見直しを図り、ハード・ソフト両面で加速化を図って参ります。



アンテナショップ正面

森林環境税

問1

森林環境税とはどのようなものか。

答1

基本的枠組みとしては、国税であり、国民

答3

これは、市町村が自ら、森林管理の仕組みを講ずるものであり、森林所有者の責務を明確にし、伐採、造林、保育が適切になされていない場合、市町村がその経営・管理の権利を取得し、能力ある林業経営者に委ねるものであります。そのため、まず、森林所有者の意向調査を実施し、その後、森林活用の事業化等の検討に入ることになります。

問2

その使い道について、町は検討を始めているのか。

答2

林野庁から、ガイドライン、優良事例の情報提供があることとのことなので、各地域の実態をふまえ、事業内容の検討を進めて参りたいと思います。

問3

新しい森林管理システムの内容と、町の検討状況を教えてもらいたい。



森林



尾形 憲男 議員

政策決定過程と現状

問1

ガーリックセンターの町との関係性、黒ニンニクに取り組まない理由は。

答1

一般財団法人田子町にんにく国際交流協会に管理・運営を委託している。協会は、にんにく産業の振興、国際交流の推進、地域の活性化を基本方針とし、にんにくに関する情報収集、にんにく及び加工品の販売、料理の提

供、情報発信をしてい

る。「取り組まない理由」として現在、田子町産の黒にんにくは、町内の企業数社が製造販売し、原料不足が慢性化しており他の産地のにんにくに頼らざるを得ない。そこに参入すると、原料確保の段階から競合する。明らかに民業圧迫だ。

問2

ガーリックセンターの責任者として経営状態と雇用状況は。

答2

売上利益1100万円、その中から500万円ほど公益事業にあてなければならぬ。これをあと86年間続けなければならぬ。現在32名雇用し最近2名退職した。その都度安定所を通じ補充している。

要望1

労働環境を良くしていただきたい。その為には儲けが必要。利益率の良い黒ニンニクを自社で製造・販売することだ。町長は原材料の確保が民業圧迫と言いが、契約栽培などそうならないような対策で、にんにくの面積拡大を促し、農家が儲け、雇用の拡大に繋げてほしい。

問3

フィリピン訪問の経緯、目的や経費負担、調査後の考えは。

答3

9月に当町企業がJICAの事業で関係のある、フィリピン共和国の大学の学長から招待を受けたもので、訪問でにんにく生産や加工に関する現状を調査

し、産業のグローバル化や経営強化、海外人材の活用、育成、地域間交流など大学や行政機関との連携によりどのような取り組みができるか探るものです。経費の話は特に無かったので、こちらで準備するのが適切と思っております。調査後の考えとしては、こちらは学ぶ場所を提供し付随する労働力を必要としている。

道駅についての本気度は。また、核となる人をどのようにに選定するのか。

問4

産業の振興と所得向上、町民が自主的に企画運営できるイベントや子供達の健やかな育成に役立ち、多くの来訪者が休息し楽しみ、

答4

2年間の増殖期間を条件に2・6ha分の種を分譲した。約10haの生産量となる。販売戦略とPR方法は増殖検討委員会を中心に検討を進める。種の生産は、

要望2

田子町らしさを満喫できる、空間を創出した。核となる人物構想にあたって、大切な物は、人・物・金・プラン・熱意。検討を重ねしっかりと進める。運営が大事。最終的に決めるのは町長。人選を早くして、町の誇りになるような道の駅にしていきたい。

問5

美六姫の取り扱いと今後のにんにく生産における役割は。

答5

平成11年に2名削減、平成19年には、6名削減し現在の10名となった。議員発議により定数の見直しがされてきた。現在が適正かどうかは活動の状況や、厳しい財政状況を勘案し、議員の皆様で協議検討し、町民の福祉向上となるよう、議会・町がともに検討し決めていければと考えます。

問6

方法の確立が急務。今後中心的な役割を果たす種に育てたい。町政の推進の両輪としての議会がある。町長は検討委員会等多数立ち上げている。直接意見交換や多様な考えの反映の為に現在の定数10名は適正か。

答6

平成11年に2名削減、平成19年には、6名削減し現在の10名となった。議員発議により定数の見直しがされてきた。現在が適正かどうかは活動の状況や、厳しい財政状況を勘案し、議員の皆様で協議検討し、町民の福祉向上となるよう、議会・町がともに検討し決めていければと考えます。

議員活動報告

議会運営（議会広報編集）委員会、総務・文教常任委員会、産業・民生常任委員会に5人ずつ所属し、特別委員会の活動や、研修会への参加・先進地視察を行っています。

協議

○実施日11月19日

12月6日開会の平成30年第4回定例回の議事日程について協議した。

議会広報編集委員会

○実施日11月7日

議会だより第97号の内容を確認し、誤字・脱字・レイアウト等校正を行い、11月22日に発行した。

○実施日11月19日

議会だより98号の担当者、構成、スケジュールについて協議した。また、委員からは町民との懇親会の早期開催に向けて意見が出された。

総務・文教常任委員会

【構成委員】 日沢一雄委員長 宇藤大介副委員長 梶本義見委員 砂子田康雄委員 澤口勝委員

事務事業調査

○実施日 11月8日

診療所・老健は3つの医療機器更新と老健施設改修について。地域包括支援課は若年者ピロリ菌検査と高齢者冬期居住拡充対策や障害者福祉及び児童福祉施設の新規開所について。建設課は世紀越えトンネル要望活動について。水道事業は新田地区配水管布工事について。産業振興課はたっこにんにくオリジナル種子の植え付け状況について。農山漁村施設整備は、道の駅構想の現時点での作業状況について。農業委員会は10月までの農地利用状況について各説明がありました。

産業・民生常任委員会

【構成委員】 尾形憲男委員長 宮村尚哉副委員長 蹴揚清人委員 沢口博二委員 欠端則夫委員

事務事業調査

○実施日 11月7日

教育課は清水頭小学校体育館屋根改修工事等について。総務課は12月補正の各会計毎の概要説明と11月17日に行われた町制施行90周年記念式典概要やプラザ空調整備改修工事について。政策推進課は田子にんにく国際交流協会の運営状況と連携中枢都市圏事業追加・拡充、その他、フィリピン訪問事業概要について。住民課は交通死亡事故ゼロ5年達成や、コミュニティバスの冬期間運行に係る運行経路及び時刻の変更について。税務課は本年9月末までの徴収実績やふるさと納税について各説明がありました。

産業・民生常任委員会 現地視察

○実施日 12月6日

生憎の雪の中の現地調査となった。山の駅？関ヶ原道の状況は来年度には開通とのこと。矢田郎線は舗装工事を来年度予定、おおよそ完了状態、向井橋は、着手前の為後日に回した。

保育園は工事が遅れ気味の様で外装も未完了であったが、期日完成に向け作に当たっていた。2月には園への引越しが完了できるように、その後、現園舎の取り壊しを含め年度内の工事終了を目指している。今回視察出来なかつたものを年度中にもう一度確認したい。

(尾形憲男)

東京田子会

11月23日、東京都市ヶ谷において開催されました第33回東京田子会に参加してまいりました。

「ふるさとたっここの一年」と題したリーフレットが配布され、田村画伯の風景画のスライドショー、田子高校郷土芸能部の神楽坂公演の紹介など、田子を離れて久しい会員の皆さんへの心づくしは十分なものであったと思います。当日は役場職員S君の計らいで三十代の若い会員も数名参加するなど、会員の高齢化と会の存続問題に明るい兆しが感じられ、今後の田子会の光明を見た思いでありました。

(宇藤大介)

道の駅視察 先進地から学ぶ

平成30年11月13日から14日にかけて、岩手県雫石町・秋田県羽後町・男鹿市にある道の

駅3カ所を視察しました。雫石町では、立地条件の良さと温泉施設を併設していることから、安定した運営ができ、羽後町では、イベントを含めての魅力化に力を入れ、隣接の町役場等の人の流れを引き込むものでした。男鹿市は、開始したばかりの施設で、ならではの問題点があり、私たちにとって大変興味深い施設視察となりました。また、共通点として施設設備・ジェラートなど女性向けに設計し、職員も女性の力が輝いていました。

明確なコンセプト

今回道の駅視察では、基本コンセプト・設置場所・運営形態など4カ所、調査研究して来りました。

■道の駅は産直のイメージがかなり強かったが、それだけに留まらず複合観光施設としての役割、災害時の防災施設の拠点としてなどの機能が盛り込まれていた。

■道の駅「うご」では女性をターゲットとしたパウダールーム付きのトイレや授乳室、コイン式シャワールームなどが完備してあり、人の流れにおいて明確なコンセプトを持ち運営されていた。

(宮村尚哉)

地域の誇り

■各道の駅に共通して、創るにあたって主体となる者にグラウンドデザインを任せて、特にコソナル(他人)に任せるということではなく、描いたものを運営させ、責任を任命者がともに背負うという、強い意志を感じた。

■「道の駅を動かす信念・取り組み」に対し、地域住民が誇りに思う感情を抱かせられるかが、成功の鍵になると感じた。

(尾形憲男)

経験を力に

■視察を行って、職員や駅長から様々な体験談を聞き、経験があるからこそと思うことが多かった。

■自分も足が弱くて駐車場とトイレが遠い道の駅は使いづらく、きれいなトイレを駅の中に配置し駐車場から少しでも近くにという話には納得ができた。

■アイスクリーム類は絶対に必要との話があり、いろいろアドバイスをもらい考えさせられた。

(欠端則夫)

道の駅 豆知識

○道の駅、発祥の地は？

諸説ありますが、現在の「道の駅」制度が正式に発足した平成5年では、全国103カ所の施設が「第1号」となります。平成2年に設置構想が始まり、翌年から山口県・栃木県・岐阜県の計12カ所に試験的に設置されました。この実験段階から用地に含まれ、実際に道の駅となった場所として、山口県阿武町と岐阜県中津川市があり「道の駅発祥の地」の石碑が建っているんだ。

葉たばこ販売 状況調査

12月3日、盛岡市葉たばこリーフセンターに赴き、二次・長坂地区の販売状況調査に参加いたしました。平成30年産の葉たばこは、植付後の低温・強風の影響で全体的に収量が減少したことに加え、連日の曇天降雨により一部に生育不振や不揃いの圃地が見られたとのことでした。生産者の方は口々に品質は悪くなかったが目方不足だった。所得減は避けられないと深重な面持ちで語っておられました。行政で出来る支援のあり方をもう少し工夫し、農家の皆様に寄り添える施策を要望していかなくてはと決意を新たに帰途につきました。

(字藤大介)

「世紀を越えた」願いを今！

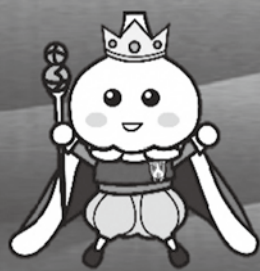
世紀越えトンネル要切要活動

始まりは1990年代まで遡り、「このプロジェクトが完成するには『世紀』を越えるだろう」とのことから『世紀越えトンネル』と名付けられた。19世紀から20世紀になり、少しずつ進めてきた歩が今年度、大きな一歩を踏み出しました。青森県・秋田県の両知事への訪問や両県庁への要望、そして世紀越えトンネル協議会へ大島衆議院議長をはじめ国会議員、県議会議員、隣接市町村からも多数参加し、ご賛同いただきました。これから両県での現地調査が始まり、トンネル実現へ確実に前進しています。

青森県

田子

国道104号



世紀越えトンネル概要図



議会の
視点！

世紀越えトンネル協議会委員として、大きな一歩を踏み出した今だからこそ、思うこと。

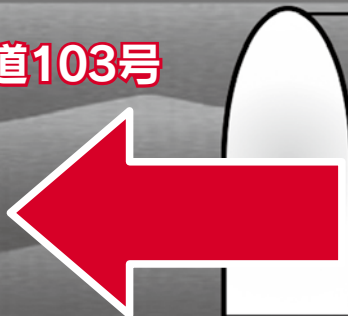
澤口 勝 副会長

このプロジェクトに関わってきた方々の思いがしっかりと受け継がれ、今、大きな一歩を踏み出すことができました。この願いの実現には私たち委員会のメンバーのみならず、近隣の市町村や関係者の方々と強い思いを胸に一致団結し、これからも確実に一つ一つ前へ進み「世紀越えトンネル」完成へ取り組んでいきたいと思ひます。

秋田県 大湯



国道103号



宇藤大介 委員

夢の実現に向けて、粉骨砕身取り組んでまいります。

蹴揚清人 委員

とどまることなく、一致団結し確実に前へ歩き続けることが大切です。

欠端則夫 委員

実現にするには利用者の気持ちを第一に考え、これからが大事だと思っております。

日沢一雄 委員

確実に前へ進んでおります。この歩を止めることなく、これからも活動していきます。

世紀越えトンネル協議会全体会



県担当からの調査説明を受けました

新年のごあいさつ

謹賀新年



田子町議会 議長
澤口 勝

町民の皆様、新年明けましておめでとうございます。

本年が、皆様にとりまして、実りの多い素晴らしい年となりますよう心から祈りいたします。

年頭にあたり田子町議会を代表いたしまして一言ご挨拶を申し上げます。

日頃より本町の町政運営ならびに議会活動に対しまして温かいご支援と、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

今年「亥」年であります。「亥」といえば「猪突猛進」ですが、その他にも様々な意味があり、十二支を一生と考えると、「戌年」でたわわに実った果実が種子となり、エネルギーを蓄えて次の時代へ向かう準備をするという意味の年です。そして「子年」に種子の

中に新しい生命が生まれ始めるとされています。また、猪の肉は万病予防の効果があると信じられることから、無病息災が生まれました。

当議会もエネルギーを蓄えつつ、田子町を担う新たな力の為に、今、私たちが出来ることに精一杯、取り組んでまいります。その為には町民の皆様の声を真摯に受け止め、町政をしっかりと監視し、良いところは「丸」となり、安心して心豊かに暮らせる田子町の実現を目指しますので、さらなるご支援、ご協力を賜りますよう申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。新春のご挨拶とさせていただきます。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。田子町議会だよりも、皆様のご協力のおかげで98号を発行することができました。

今期は「見たくなる・読みたくなる」を目標に、今までの議会だよりに変化を加えてきました。これからも町民の皆様に見たいと手にとっていただけできるよう、工夫を重ね広報編集委員が一丸となり取り組んでいきたいと思えます。本年もよろしくお願いいたします。

(日沢一雄)

発行・編集責任者

議長 澤口 勝

議会広報編集委員会(第98号)

委員長 宮村 尚哉
副委員長 宇藤 大介
委員 砂子田康雄
日沢 一雄
尾形 憲男

執筆協力

沢口 博二
欠端 則夫
田子神楽保存会